



落語家バンド
三K辰文舎

扇子を楽器に持ち替えて、
噺家が音楽に挑みます。
本格的な！歌と演奏を
ご堪能ください。

第2回

特選

植木寄席

三K辰文舎

落語 & ライブ

さん けい しん ぶん しや

落語家バンド

江戸風情！ 古典落語とライブ

入船亭扇辰
いりふねていせん たつ

橘家文左衛門
たちばな やぶんざえもん

柳家山せん
やなぎやこ

前座・柳家花どん
まえざ・やなぎはなどん

本格的な古典落語四席と、

落語家バンド『三K辰文舎』による

洒脱なMCによるライブの

二部構成でお届けします。

《日時》
平成26年 1月19日
14:00 開場 14:30 開演

《会場》
熊本市植木文化センター
植木町文化ホール

《料金》全席自由
一般 1,000円
高校生以下 500円

当日は各500円増

※未就学児の同伴はご遠慮ください

《チケットのお求め》

熊本市植木文化センター、
熊本交通センター、熊日プレイガイド、
ウエッキー 宮崎酒店、
うちだ万十店、田中商店

植木まちづくり交流室
お問合せ 096-272-6906

《主催》

植木町文化ホール自主文化事業協会、植木町合併特別区

《企画協力》

つばなれの会

特選 植木寄席の彩り



第2回目の「特選 植木寄席」が開催できること、また、企画のお手伝いができますことに、主催者の植木町文化ホール自主文化事業協会・植木町合併特例区に感謝です。私事では、マイクを使わない畳の会場での落語会にこだわって主催してきました。昨年の「特選 植木寄席」は、初めてのホール落語会の企画でした。入船亭扇遊師匠、瀧川鯉昇師匠の得意ネタ、絶妙な楽屋トーク、何よりも客席と一体となった盛り上がり感動しました。

さて、第2回目の企画を依頼され、前回のアンケートを拝見しますと「色物を入れた寄席の雰囲気」というご要望がありました。

ちなみに、寄席での色物とは落語と講談、義太夫以外のこと。今、東京の定席寄席の主流が落語寄席となり、芸種が違う場合は出演芸人さんの番組表でも区別されているようです。落語と講談は黒でその他の漫才や音曲、太神楽、奇術などは赤で記されているようです。出番も一般的には、くいつき（中入り後の出番）や膝替わり（トリの真打の前の出番）で華やかな芸で寄席舞台を彩っています。

そこで、東京の定席寄席の限りない再現をと考えましたが、熊本植木まで呼びする芸人さんの数も限られるし、何よりも寄席の舞台には植木文化ホールはちよつと広すぎます。昨年のような本格的な古典落語会に彩りの風情を付加した企画を考えました。結果、花形落語家お三方のたっぷり古典落語と、色物というには失礼ながら、また、余興など侮れない本格的なバンド「嘶家バンド三辰文舎」を彩りとして二部構成にしてみました。落語とライブの洒脱な会は、東京以外では植木文化ホールの特選寄席が初公演だそうです。きつと、老若男女どなたも楽しんでもらえる会になると思っています。新たな「特選 植木寄席」をたっぷりとお楽しみください。

つばなれの会

（落語会等企画ボランティア）

上田 博司



柳家小せん

1974年神奈川県横浜市出身

《芸歴》

平成9年 鈴ヶ舎馬風に入門
「鈴ヶ舎わか馬」
平成12年 二ツ目昇進
平成22年 真打昇進
五代目「柳家小せん」襲名

《受賞》

平成14年 北とひあ若手落語家競演会 大賞
平成21年 江戸一番勝負！
若手落語家グランプリ 優勝

橋家文左衛門

1962年東京都江戸川区生まれ

《芸歴》

昭和61年 橋家文蔵に入門
昭和63年 前座となる 前座名「かな文」
平成2年 二ツ目昇進 「文吾」と改名
平成13年 真打昇進 「文左衛門」と改名
現在、BS笑点大喜利メンバー(レギュラー)

《受賞》

平成16年 彩の国落語大賞 殊勲賞

入船亭扇辰

1964年新潟県長岡市生まれ

《芸歴》

平成元年 九代目入船亭扇橋に入門
前座名「扇たつ」
平成5年 二ツ目に昇進「扇辰」と改める
平成14年 真打に昇進

《受賞》

平成10年度につかん飛切落語会 努力賞
平成11年度につかん飛切落語会 努力賞
(連続受賞)
平成13年度につかん飛切落語会 奨励賞
平成18年度国立演芸場 花形落語会 銀賞
平成20年度国立演芸場 花形落語会 金賞
扇辰日和、扇辰・喬太郎の会、心技体、扇辰
びより、他多数の定期落語会に出演

扇辰日和

<http://www2.ocn.ne.jp/~fukumame/>